

第73回日本病院学会



2023

9/22 (金) 12:00 ~ 13:00

会場

第4会場

(仙台国際センター 会議棟2F 桜1)

日本一早い退院を可能にした 周術期リハビリ栄養管理

～収益向上と働き方改革の両立は可能か？～

座長

島村 弘宗 先生

国立病院機構仙台医療センター 外科 総合外科部長

演者

海道 利実 先生

聖路加国際病院消化器・一般外科 部長

本セミナーは、整理券制です。

■配布場所：仙台国際センター 会議棟 2F ホワイエ

■配布日時：9月22日 8:00～11:00

※整理券はセミナー開始5分後に無効となりますので、ご注意ください。

※本学会は現地開催です。

共催

第73回日本病院学会

株式会社 シノテスト

日本一早い退院を可能にした周術期リハビリ栄養管理 ～収益向上と働き方改革の両立は可能か？～

海道 利実 先生

聖路加国際病院消化器・一般外科 部長

“マネジメントの父”と呼ばれるP.F.ドラッカーは、マーケティングとイノベーションの重要性を説きましたが、医療も例外ではありません。医療の現場において様々なニーズを抽出し、問題解決を行い、より良い方向に変えていくことが重要です。つまり、「臨床のニーズ」を「研究のシーズ」にすることが医療の進歩やイノベーションにつながります。そのためには、現場の問題点に気づいて、考えて、臨床試験を行って、妥当性を検証することが必要です。

また私は、医療の原則は「評価と介入」と考えます。評価して必要があれば介入する、必要なければ介入しない、というシンプルな考えです。周術期リハビリ栄養管理で言えば、正確な評価と適切な介入が重要です。わが国では超高齢化社会を迎え、健康長寿がトピックとなっていますが、健康長寿と言っても、「病気にせず長生き」と「病気しても長生き」の二つの考えがあります。我々は外科医の視点から、後者を念頭に置いた取り組みやイノベーションを行っています。例えば、当院では早期回復プログラム(ERAS®)を積極的に導入し、評価と介入に基づく手術術式の改良や周術期リハビリ栄養管理などにより、通常、術後在院日数が3週間以上とされている臍頭十二指腸切除術後在院日数を8日(中央値)と著明に短縮させることが可能になりました。

さて、医師の働き方改革が2024年4月から施行され、喫緊の課題となっています。現在、外科医の労働時間を短縮させる方法論のみに焦点が当てられていますが、果たしてそれだけで良いでしょうか？その結果、病院の収益が下がったり、手術件数が減ったりしてはいけません。私は、医師、病院、患者の3者がWin、Win、Winとなるような取り組みこそが「望ましい働き方改革」であると考えています。そのカギは人財育成であり、我々は労働時間の短縮、病院収益の向上、手術成績の向上を達成し、Win、Win、Winを可能にしました。

そこで、本ランチョンセミナーでは、

- 1) ドラッカーのマーケティングとイノベーションの医療への応用
- 2) 日本一早い退院を可能にした周術期リハビリ栄養療法
- 3) 部下のモチベーションを高めるコツ
- 4) 病院の収益向上と働き方改革のカギ
- 5) 仕事で成功するための12のメッセージ

などにつきまして、時間の許す限りご紹介いたしますので、どうぞお楽しみ下さい。